

第48回日本工学教育協会年次大会開催

さる、7月18日(火)から20日(木)の三日間、名古屋通信会館を会場に、第48回日本工学教育協会年次大会が開催された。

日本工学教育協会は工学に関する大学等高等教育機関相互並びに高等教育機関と産業界との連絡を密にし工学教育の振興をはかり、産業の発展に寄与することを目的とし、昭和27年に設立された。

当協会の年次大会は平成3年以来の名古屋開催であり、全国各地より300名を超える、大学、高専、各企業等の工学教育の代表者が集まり、「次世代産業社会における工学教育と産学連携」をテーマに活発な意見交換をおこなった。



当社 吉田技術顧問

第1日目は開会式、表彰式、特別講演が行われ、「工学教育の諸課題」について、岩本文部省高等教育局専門教育課長が講演され、引き続き、当社の吉田技術顧問が「科学技術の進歩と工学教育」と題して講演された。



当社人材開発センター 遠藤副所長

第2日目には「工学・工業教育に関する研究講演会」が25セッションに分かれて、96名の発表が行われた。当社からも人材開発センターの遠藤副所長が、「システムコーディネートできる人材育成を目指して」と題して講演された。講演内容としては、近年電力設備の高

電圧大容量化が進む一方、更なる低コストで高信頼度な電力の供給が求められている中で、このような社会的あるいは技術的な要請に対して、電力システム全体としての合理的な協調を図ることが重要な課題であり、これらに対処できる人材の育成が急務である。そこで、システムコーディネーションという概念の導入を図り、求められる電力技術者の資質向上にむけて、全社部門横断的に取り組んだ教育例について紹介した。



当社 野嶋技術開発本部長

第3日目は、午前中、調査研究報告としてJABEE関連報告等が行われた。午後より、当社野嶋技術開発本部長が地区組織の東海工学教育協会の副会長として、特別講演の司会を担当され、JR東海須田会長が『産業界から見た「教育」の課題と今後への期待』と題して今後の「教育」への期待、その展開について熱心に語られた。

最後に大会テーマを議題に、シンポジウムが行われ、21世紀の産学連携の役割について、熱心な議論により大会を締めくくった。



JR東海 須田会長

(注)JABEEとは、日本技術者教育認定機構といい、国際的基準で、大学をはじめとする高等教育における各技術領域の技術者プログラムを審査し、当該専門分野の学問的水準を評価、認定する民間機関



事務局 / 加藤 範夫
Katou.Norio@chuden.co.jp